行政への要望等（自由意見）

行政に対する要望や意見について、自由に書いてもらったところ、516件（「特になし」は除く。）の要望や意見が寄せられた。

内 容	件 数
1 ハード面の整備	82
2 ソフト面（意識やマナー）の向上	33
3 子供	46
4 障害者	24
5 高齢者	38
6 都政一般	108
7 本調査に関するもの	80
8 その他	105
合 計	516

主な要望・意見は以下のとおりである。

1 ハード面の整備

- ・ 子育て中の立場から特に以下をお願いします。(1) 駅のエレベーター・エスカレーターの整備(駅だけは税負担してでも早く整備してほしいです)(2) 保育所、一時保育の充実、安価なサービスへ。(優秀な女性が子育てのため仕事をやめている実態は、社会の損失です。特に東京はひどい。もったいない。仕事をやめないよう、どんどんサポートすべきです)(30代女性)
- ・ 公園、道路での禁煙をとりしめる・歩道の自転車があぶない。自転車専用道をつくるべき。(30代男性)
- ・ 東京都は色々な面において進んでいると思われがちですが、まだまだな時も数多くあるように思います。高齢の方からよくきくのですが、駅などエレベーターやエスカレーターがあっても、その場所までいくのが大変困難(遠い場所にあったり、人混みの中を歩くのが大変であるetc)といわれます。もう少し高齢の方の本音をきき出して設置されたらいいなとつくづく思います。また、自転車に対する決まりなどももう少し厳しいものを東京都として作ってはどうか?放置自転車のために救急車が通れないこともよく見かけますし、自転車の事故も多発しています。歩道、自転車道、車道と分れていたらとつくづく思う今日この頃です。よろしく願いいたします。(30代女性)
- ・ 東京都がやさしいまち東京を目指してバリアフリー化そしてユニバーサルデザインの普及を進めていることあまり知りませんでした。そのため、最初の方の質問(まちや建物や乗り物がバリアフリー化されていますか?など)には答えにくかったです。日頃そのような不自由な人たちの視点に立って意識してバリアフリー化されていると見ていなかったからです。もう少し人目につきやすい所で情報提供する必要があると思います。(40代女性)
- ・ 路側帯を歩く、歩行者の保護があまいと思う。今、イヤホンをしながら自転車を運転する人が多く、そのような人への処罰などを強化し注意を促すべきである。また、自転車を運転する人への教育なども地域ですべきである。またハイブリット車などで、車の存在に歩行者が気づかないことが多く、事故につながることもなる。道路の路側帯に歩行者専用車線を設けるなど、車に歩行者を避けさせる環境づくりも必要である。(20代男性)
- ・ 最近自転車との事故が多く聞かれます。私も時々、歩道を走る自転車に危険な思いをします。もっとマナーの徹底と取り締まり、法的な面でも取り締まりを強化して欲しいと願います。狭い歩道ですと自転車と人とのすれ違い時にも事故は起こると考えます。(70代男性)
- ・ 行政側(国・都・区)がどのような役割分担で、何を行なっているのか具体的に情報発信を一元的にもっと出してもらいたい。施設や道路のバリアフリー化、結構進んでいると思いますが、ただ単に段差をなくしただけになっているケースがあるのでは。例えば道路と舗道との段差は解消されたが、その部分が急坂状態になっていて、雨の日など濡れている場合等、滑りやすく、恐いと感じるケースがある。ハード面での整備を進める中で、必ず広く利用者の意見を聞き、それらをハード面に生かしてもらいたい。それにより多少整備が遅れる事もやむなしと思う。不完全なものが出るより、利用者がこれはありがたいと思うようなものにしていただきたい。(50代男性)

- ・ 高齢者の方、障害を持つ方、小さなお子さんを持つ方、全ての人達が少しでも恵まれた良い環境の中で、生活していけるように、地域や行政、国が色々な提案を出し合いながら街づくりができていければと思います。(40代女性)
- ・ 私も肢体障害者です。自転車が近づくととても恐ろしいです。階段バスの乗り下りは大変です。全て満足は無理ですが、少しでも生活しやすくなることを望みます。私の足が遅いから、しかたないと思いますが、交差点の信号が青から赤になるのが早く、渡りきれません。(60代女性)

2 ソフト面（意識やマナー）の向上

- ・ バリアフリー、ユニバーサルデザインの実施には相当のコスト、エネルギーが必要です。公共施設等のエレベーター、エスカレーター、自動ドアなどを健常者は使わないようにさせることを徹底していくことが必要になっている。そのような設計と案内表示を進めさせることが必要になっている。別の言い方をすると、公共施設等の設備におけるユニバーサルデザインはエネルギーの安定（安価）供給が前提となる。省エネ、地球温暖化対策あるいは健康の保持・増進という視点も加味すべきではないか。そうすると、わずかな階段昇降や簡単にできる扉の開閉などに、健常者が当然のごとくエレベーター、エスカレーター、自動扉を使用していることに有効な歯止めをかけるべき時期に至っていると思われる。(50代男性)
- ・ バリアフリー化は、進んできていると思うが、実際に障害を抱えた方が生活するにあたり不便な点が沢山あると思います。道をゆずったり（自転車ですれ違う際は特に）声をかけ合ったりするなど、一人ひとりの心掛けが一番大切だと思います。そのような雰囲気作りをすることが重要だと思います。バリアフリー化をすすめていくには、費用、時間もかかるため…。(20代女性)
- ・ ハードウェアの整備には限界があると思います。むしろ互助の精神／風土を養うこと、その基盤としての生活のゆとりを確立することが、まず求められているのではないのでしょうか。(40代男性)

3 子供

- ・ 育児にお金がかかり、生活していくのに精一杯です。正社員で働いていましたが、体力的にも、精神的にも、子供の成長による（情緒や保育）ものにも限界を感じ、辞めざるを得ませんでした。食費、学費、医療費、子供たちが成人するまで、まだ10年以上あります。時々、何もかも嫌になったり、将来を不安に感じます。パートで働いても収入はわずかです。高校卒業まで、医療費が無料だと助かります。(40代女性)
- ・ 子育ての応援と、働かなければならない人が働きやすい社会、女性が子育てをしながら働きやすい社会の手助けをたくさん増やすべきだと思います。(30代女性)
- ・ 子育て中の母親が働く場合の認可保育所が不足しています。無認可の保育所も最近は増えましたが、やはり不安と費用面での負担が大きいです。また、病児保育施設が非常に少ないため、急な子供の病気の際は会社を休まなければならない、再就職の壁になります。身近に親族がいない人は、働きづらいです。(40代女性)

- ・ 子育てに関して女性に異常なほど負担がかかっている状態に、強い不満を感じます。行政にもっと女性が参加していくとよいと思います。女性（女子）にキャリア教育を小学生の頃から行っているのに、結婚、出産、育児となると、その教育は、全く無視されたようになります。矛盾を感じます。一生懸命勉強するほど、社会で活躍するほど、家庭に入るしかなかったときに喪失感があります。（40代女性）
- ・ 保育園、学童の充実を至急行ってほしい。車道、歩道、自転車道を整備してほしい。子供をのせて車道をはしるなんて無理です。（30代女性）
- ・ 現在3ヶ月の子どもを育児休暇で育てているが、地域の保育園の待機状況はすさまじく、認証保育園でさえも入れるかどうかわからないという状況である。（生後1ヶ月から保育園訪問しているが、すでにかんりの登録者がいる認証園が多い）私は非正規労働者で仕事をかけもちしている状況だが、認可園は正規労働者が優先されており、収入の少ない我々のような立場の者には不利である。子育てしながら育児できるよう、より保育園の整備をすすめてほしいです。認可園の優先入園は非正規・正規労働という点でいけば、より所得の低い人を対象に（非正規優先で）してほしいです。・非正規労働者は休みもとりにくく、収入も少ないですが、現状少なからずいるこの層の人たちが子を産み育てなければ、少子化は進むばかりだと思いますので…。（30代女性）
- ・ わが家は2人の子供の子育てに日々悩んだり、迷ったりします。願うはただ一つ、母親に心の余欲があれば、子育てにも余欲をもって関わっていけるという思いです。共働きで身近に親せきもない母親は子供が風邪を引いても、預ってくれる人がいないことから、子供に無理させて登校・登園させ、罪悪感をもちながら仕事をしなければならない…というのは私をはじめよく聞く話です。病後時保育を実施している所もほんのわずかで、地域差もあります。これでは少子化にならざるをえない状況です。これ以外でも、もっと母親がリラックスして子供を育てられる地域づくりをしてほしいものです。（30代女性）

4 障害者

- ・ 家族に知的障害者がいるので、福祉関係は予算なども含めて気になります。重度の障害者といえども、地域で安心して、一人の社会人として生活できるようなサポート体制がほしいと思います。いつまでも「親」が亡くなるまで「子」をみるというのはおかしいと思います。老老介護ならぬ老障介護が一刻も早くなくなるように、行政のなお一層の支援を望みます。（40代女性）

5 高齢者

- ・ 高齢者、障害者、健常者が支え合って暮らしてける社会作りを希望します。核家族化が進む中、健常者は自分達以外の人々の不自由さに気付きにくい時代になっているのではないのでしょうか。これを補うのは小さい頃からの教育時の交流や、教育自体なのだと思います。子育て支援がとて必要とされているのと同様、高齢者の方々への支援は必要です。自分達がリタイアしたときに、幸せな姿を思い浮かべられるのか、不安ばかりイメージして生活しているのでは、他の人への思いやりを持つ余裕が生まれないでしょう。私は20代ですが、リタイアした方々への丁寧な扱いが感じられなくなってきた現代、とても寂しく感じています。（20代女性）

- ・ 現在母の介護で、保険がきいておりますが、それ以上に思ったより費用がかかっております。将来、自分が介護が必要になった時に、年金も少なく、利用できる保険の額が今より確実に減ると思うととても心配です。保険の負担額だけが増え、将来利用が厳しい状況になるのだけはなんとか検討していただきたいと思っております。(40代女性)
- ・ 現在101才の義母の介護中心の生活をしています。家族で出来るだけの介護と訪問入浴、週1回のデイケア、月1回位のショートステイを利用していますが、突然の葬祭時には、一時的に預かってもらえる施設が無いのでこまる時があります。ショートステイの施設は、2ヵ月位前からの申し込みをして、空きがあれば入所出来るシステムなので急な時は困る事が多いです。家族の急な入院や親せき等の葬儀出席等、本当に困る事があり、せめて2泊3日位緊急時に預かってもらえる施設があればと思っています。(60代女性)

6 都政一般

- ・ 福祉とは、やはり一番大切なのは、弱者の立場に立って、行政を考える事だと思います。人間誰も病気やケガなど、いつどこでどのように出会うかはわかりません。そして、誰も好きこのんで不自由になる訳でもありません。元気で健康な人は、本当にその事に感謝し、弱い立場に立たざるを得なくなった人達の事を、積極的に理解し、けして上から目線ではなく、「一緒に生きて行きましょう、お互い様ですから」の気持ちで、お互いにとって優しい行政を考えて頂きたいです。そして現場でしっかり生かされるよう、規則だけに縛られない臨機応変、柔軟な対応が出来る行政を何より望みます。そして、マニュアル人間ではない、しっかり大人の対応の出来る職員の育成も同時に望みます。誰にとっても身近にその良さが感じられる行政に期待します。(50代女性)

7 本調査に関するもの

- ・ 調査は重要なことだと認識していますが、結果をまとめて関連部門へ報告して“終り”では困ります。調査結果がどのように行政に反映されて、改善されているかを都民の皆さんに理解し易い形で報告をして下さい。くれぐれも調査だけで終ることのないように期待しています。(60代男性)

8 その他

- ・ 民生委員は児童委員も兼ねていて、子育ての相談もできることがあまり知られていないように思う。仕事はボランティアで、広範囲に渡り、多忙な方たちだと思うけれど、町会の人よりは身近な存在だと思う。相談したことはないけれど。(40代女性)
- ・ 日本の社会も成熟し、福祉保健行政も外国のモデルの良否を適格に判断できる水準にある。今後は日本独自の都市型福祉保健行政の政策モデルを外国の模索だけでなく、開発と創造する必要がある。(例えば、世代間の公平・平等を前提とするまちづくりなど)(60代男性)